

本会の生い立ちと 活動の概要

創立の機縁

本会は、多くの団体がGHQの指令で解散を余儀なくされた終戦直後の昭和21年2月11日、「日本学士会」（任意団体）の名称のもとに誕生した。当時の日本は敗戦による混乱の只中にあった。極度の食糧難と物資不足に悩まされながら、戦火の及ぶことの少なかった京都の地で、精神の枯渇から脱するようにな少数の人々が相寄り新生日本の再建を目指して集結したのが創立の機縁となった。そのなかには、初代会長となった京都大学名誉教授・野上俊夫氏、同じく吉澤義則氏がいた。これらの人々は「学問の自由と民主化」を求め、官学偏重の弊風と学問研究体制の閉鎖性を排除し、広く人材を糾合して平

和な文化国家の建築に資することを創立の趣旨とした。

以後、わが国は奇跡といわれる復興をなし遂げ、さらに高度成長期に入っていく戦後の歴史と歩みを一にし、発足直後から会員の募集を開始するとともに、各地における講演会をしばしば行い、会員著作の図書、あるいは機関紙『アカデミア』の発刊にも着手した。昭和24年には、2代日会長吉澤義則氏によって、教育・学術・文化の各分野において社会的功績著しい人物を表彰する「アカデミア賞」授賞制度を制定、これは今日も当会事業として継承されている。このようにして年々事業活動の幅を広げ、徐々に会員数を増やして発展の素地を固めた。



昭和39年アカデミア賞授賞式 京大楽友会館にて